

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

デバスズメダイ

【英名】blue green damselfish

【学名】*Chromis viridis*

光あふれる水中に、色とりどりの魚が泳ぐサンゴ礁。この美しい景色に一役買っている魚にデバスズメダイがいます。インド洋、太平洋に分布している全長8cmほどの魚です。造礁サンゴの周りに群れをつくり、流れてくる動物プランクトンなどを食べてくれています。全身がきれいな青緑色をしており、ダイビングなどで人気のある種ですが、近くで観察するためには少し工夫が必要です。デバスズメダイは、危険を感じるとすぐにかくれてしまうからです。硬いサンゴの隙間に入ってしまうと、大きな魚に襲われることはそうありません。「サンゴ礁の海」水槽でもその様子が観察できます。サンゴを利用するデバスズメダイの動きにご注目ください。（教育普及係 市川 啓介）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 「サンゴ礁の海」水槽をつくる

なぎさNEWS

- じつは身近にいたケフサイソガイ
- なぎさで探そう！こんな生き物「シオフキガイ」

水族園のもう一つの顔

- 今年も発芽した「流れ」のオニバス
- やっぱり干潟はとっても楽しい！

TSLP LATEST



Vol.20 No.5 2022

OCTOBER

通巻

106



「サンゴ礁の海」水槽をつくる

2022年7月21日、「大洋の航海者 サメ」水槽が「サンゴ礁の海」水槽としてリニューアルオープンしました。幅12m 水量約200tの大型水槽では、明るい光が差し込みその光が育むサンゴのなかまや、サンゴ礁にくらす色とりどりの魚たちを見ることができます。今回の展示変更にかかった期間は約半年間。ここでは、「サンゴ礁の海」水槽をどのように作り上げていったのかを紹介します。

サンゴに必要な設備を整える

サンゴを飼育・展示するために必要な要素は大きく分けて、「明るさ」・「レイアウト」・「水質」・「水流」の4つです。明るさでは、サンゴに共生する褐虫藻の光合成に適したライトを新しく取り付けました。レイアウトの軸となる骨組は、サンゴが成長した様子をイメージしながら、高さや段の広さを検討しました。次に水質です。骨組には、小さなあながたくさん開いた特殊な岩を取り付けました。この岩は、表面積が大きいので、水の汚れをきれいにし生き物がすみやすく、自然な見た目とともに水のろ過にも役立ちます。また、もともとこの水槽には水質を維持するためのオゾン殺菌装置や、生き物にとって有害な物質である硝酸塩などを取り除く脱窒装置も備わっていたため、それらを使いながらサンゴの飼育に必要な水質を維持しています。最後に水流では、サンゴの飼育に適した複雑な水の動きをつけるため、水流をつくる配管も新しく水槽内に整備しました。



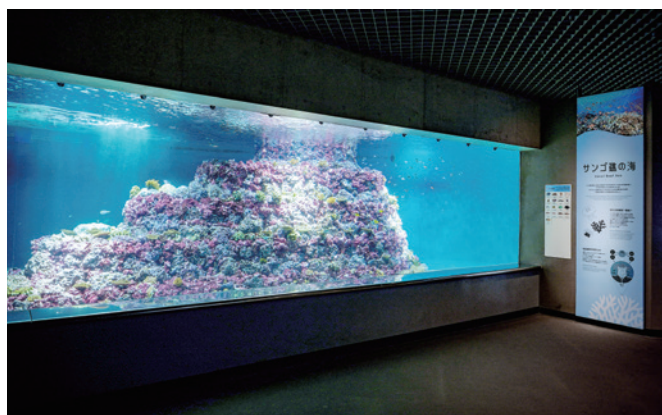
砂の入った袋を運び入れる（これでもまだ半分）



骨組に岩を取り付ける

レイアウトの仕上げと展示生物たち

設備を整えた後は、レイアウトの仕上げです。まずはサンゴ砂を入れました。その量はなんと20t以上！1袋15kgから20kgのサンゴ砂を約1300袋、全て水族園スタッフが手作業で運び入れました。作業が終わると皆汗だくです。振り返ると、この作業が1番大変でした。その次はたくさんの岩を骨組に取り付ける作業です。重さ500gから10kgほどの岩を、こつこつと固定具でくりつけました。海水で水槽を満たし、環境が安定したことを確認したら、いよいよ生き物の移動です。最初に水槽に入れたサンゴは、比較的成長が早く、水族園で長期の飼育経験があるミドリイシのなかまです。サンゴは種により好む光や水流があるため、光量を測り、水流も計算しながらひとつひとつ設置していきました。魚類では、色鮮やかでサンゴに害を与えないデバスズメダイやアカネハナゴイ、水槽に生えるコケを掃除してくれるサザナミハギやヒフキアイゴなどを最初の展示種に選びました。

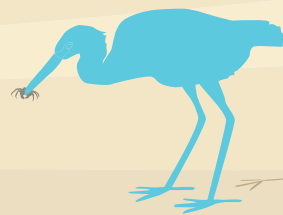


完成した水槽

オープンしたての水槽のため、まだまだ発展途上ですが、今後サンゴが成長し、新たな生き物も追加することで、多様な生き物が相互に関係しあう自然のサンゴ礁の海に近づけていきます。成長していく展示を、楽しみにしてください。（飼育展示係 小味 亮介 / 松村 哲 / 幅 祥太）

ミドリイシのなかま

なぎさ NEWS



じつは身近にいたケフサイソガニ

今年の夏、水族園周辺のカニ類の生息状況を観察するため、葛西臨海公園鳥類園の「下の池」を訪れました。「下の池」は旧江戸川の河口に隣接する人工の汽水池です。採れたタカノケフサイソガニを手にとってみると、なかに少し様子の違う個体は何匹か見られました。さっそく水族園に持ち帰って調べてみたところ、それはケフサイソガニだったのです。じつは、この2種は2005年まで同種とされており、多くの場所で同所的に生息しているという報告があります。お腹にある黒いはん点の出方や、はさみの付け根の毛の生え方などに違いがあると言われていますが、見た目もとても似ています。水族園でおこなっている「西なぎさ」での調査では、タカノケフサイソガニはよく見られるカニのひとつですが、ケフサイソガニは確認された例がありません。今回「西なぎさ」からそれほど遠く離れていない鳥類園にケフサイソガニが生息していることを知り、おどろきました。

注意深く探したら、「西なぎさ」にもケフサイソガニがいるのかもしれないですね。今後も両種の分布に変化があるのか、注目しつつ観察を続けたいと思います。

(調査係 小林 愛子)



ケフサイソガニ（上）はお腹にはん点が多い

なぎさ

で探そう！
こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★ ☆

サイズ 殻長4cm

見つけるコツ

潮がよくひく時間帯に、干潟でかけて地面を掘ってみよう。ようは潮干狩り！あまり深くもぐらないので、手で掘っても見つかるよ。どこを掘ろうか迷ったときは、地面に開いたあなを目印にするのがおすすめ。シオフキガイのあなとは限らないけど、ほかの生き物にも出会えるかも。

シオフキガイ (バカガイ科)

シオフキガイ(実寸大)
表面はつるつる。丸みがある。



他にも
こんな二枚貝がいるよ！



シナハマグリ
表面は
つるつる。
殻に厚みがある。



アサリ

表面はザラザラ。
模様がある。



■シオフキガイはこんな生き物

東京湾奥の干潟で、よく見られる二枚貝のなかまだよ。丸みのある形をしていて、殻の表面はつるつる、模様がなくて白っぽい色をしているよ。シオフキガイを見つけたら、干潟の水溜りに置いてしばらく待ってみよう。あしをつかって、砂の中に潜っていくところが見られるよ。食べられる貝かどうか気になる？おいしい貝だけど、むき身にしてから砂を洗い流すひと手間が必要なんだ。ちょっと面倒くさいけれど、もし採れた時には味も確かめてみてね。(飼育展示係 宮崎 寧子)

水族園 のもう一つの顔

今年も発芽した「流れ」のオニバス

今年の1月、「水辺の自然」エリア「流れ」で浚渫（しゅんせつ）を行いました。浚渫は長年かけてたまった泥（どろ）を取り除く作業で水質（みずしつ）の改善（かいぜん）が期待（きだい）できます。環境（かんきょう）が改善（かいぜん）されるのは良いことですが、「流れ」で育てているオニバスへの影響（えいきょう）が心配（しんぱい）でした。

オニバスは葉の直径が2m以上になるスイレン科の浮葉植物（ふようしょくぶ）です。夏に発芽（はつ芽）して花や実を付け、種を残して冬には枯（か）れます。そして、残った種（たね）が翌年（えいねん）以降（いこう）に再び育つ一年生植物（いちねんせいしょくぶ）です。浚渫（しゅんせつ）により環境（かんきょう）が変わってしまうことで、春に芽（め）が出てこないのではないかと不安（ふあん）でしたが、6月に入ると無事に芽（め）が出てきてほっと一安心（ひとしんじん）しました。

しかし、まだ安心（あんしん）はできません。外来生物（がいらいせいぶつ）のアメリカザリガニに芽（め）を切（き）られたり、食（た）べられたりすることもあります。そこで、アメリカザリガニが近寄（よ）らないように芽（め）を枠（わく）で囲（こも）い見守（みも）ったところ、今年も葉（は）が1mを超える立派（りっぱ）なオニバスが育（そ）ちました。来年（らいねん）も大きなオニバスを ご覧（らん）いただけるよう、取り組（こ）組んでいきたいと思います。

（飼育展示係 遠藤 周太）



今年一番大きく成長したオニバス

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 8/13 オウサマペンギンのヒナが誕生
- 8/11-14 開園3時間延長イベント「Night of Wonder」を実施（うち8/13は台風接近のため中止）
- 8/21 海鳥講演会「つどえ オロロ〜ン!」開催
- 8/1-30 「シーウィンド」壁面で海鳥保全活動のパネル展を開催
- 8/31 「東京湾にもいるこんな生き物」水槽でアオリイカ（繁殖個体）を展示
- 9/4 「葛西の海 2」水槽でトウゴロウイワシを展示
- 9/11 葛西臨海公園にニホンコウノトリが飛来
フィールドプログラム「東京の海を知る」第2回を実施
- 9/19 「水辺の自然」エリア「田んぼ」で稲刈りを実施
- 9/21 「伊豆七島の海3」水槽でウナギギンポを展示
- 9/27 「ペンギンの生態」エリアでオウサマペンギンの展示を再開

やっぱり干潟はとっても楽しい!

干潟（ひがた）でどろどろになりながら生き物（いきもの）を探（さが）す。そんなことができる場所（ばしょ）が東京（とうきょう）にもあります。水族園（すいじゅえん）では、未就学児（みしゅうがく）や親子（おやこ）といったさまざまな方（かた）を対象（たいしょう）とした干潟（ひがた）観察会（かんさつかい）を葛西海浜公園（にしうみづきこうえん）の人工干潟（じんこうひがた）「西なぎさ」で実施（じっし）しています。新型コロナウイルス感染症（新型コロナウイルス感染症）の影響（えいきょう）でずっと休止（きゅうし）していましたが、今年の6月、約3年ぶりに現地（げんち）での観察会（かんさつかい）を再開（さいかい）することができました。どの年齢（ねんれい）を対象（たいしょう）にした観察会（かんさつかい）でも、例年（れいねん）にないほど多く（おほく）の応募（おうぼ）があり、皆さん（みなさん）が野外（がい）での体験（たいけん）を求めていたことが伺（うか）えました。3年（さんねん）という月日（げつじつ）は小さな子ども（こども）にとってはとても長く貴重（きんちゆう）です。今年度（ことねんど）6歳（さい）になる未就学児（みしゅうがく）を対象（たいしょう）とした「進め! 海のいきものたち」では、うまれて初めて海（うみ）にきたという子（こ）もいました。干潟（ひがた）に出てみると、みんなで手（て）をどろどろにしながら砂（すな）や泥（どろ）に触（ふ）って感（かん）触（じく）を確（た）かめたり、夢中（むちゆう）になってカニ（かに）を捕（と）まえたりと、とにかく楽し（たの）そうにしている様子（ようす）が印象（いんげい）的（てき）でした。改めて、外（そと）に出（で）かけて生き物（いきもの）や自然（しぜん）と触（ふ）れ合（あ）うことは大切（たいせつ）だと感じ（かん）じるとともに、このような機会（きかい）をもっと設（た）けていきたいと思いました。

（教育普及係 田中 隼人）



ヤマトオサガニの眼はここだよ!



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

水槽（すいじょう）をいからつくる機会（きかい）は多くありません。「サンゴ礁（さんごしょう）の海（うみ）」水槽（すいじょう）のリニューアル作業（さぎょう）は、私たち（わたしたち）スタッフ（スタッフ）の良い経験（きけん）となりました。それにしても、砂（すな）入れの大変（たいへん）さ…。「ああ腰（こし）が」「もう腕（うで）が」といったつぶやきが聞こえてきそう。33年前（33ねんまえ）に水族園（すいじゅえん）がオープン（オープン）した時は、すべての水槽（すいじょう）がいちからの出発（しゅつぱつ）。どれだけ大変（たいへん）だったことでしょうか。感慨（かんがい）深（ふか）いです。（高濱）

SEA LIFE NEWS 通巻 106

Vol.20 No.5 2022 OCTOBER 10月1日発行（次号は2022年12月発行予定）

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル 7階
TEL.03-3828-2143

